学校番号	3030

令和８年度　創造探究科

教科	創造探究	科目	高津 LC 情報(２年)	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	「高校情報Ⅰ　Python」　（実教出版）						
副教材等	「高校情報Ⅰ　Python 学習ノート」　（実教出版） 「2026 情報Ⅰ　実戦攻略 大学入学共通テスト問題集」　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報機器を使用した授業が中心になりますが、情報機器・情報技術をうまく活用するだけでなく、情報モラル・情報リテラシーを学習し、現在の情報社会のいろいろな場面で問題解決できる能力を身につけましょう。

2　学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身につけているとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの観点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を提供し、自ら評価し改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第4章 ネットワーク	・ネットワークとプロトコル ・インターネットの仕組み ・Web ページの閲覧とメールの送受信 ・情報システム ・情報システムを支えるデータベース ・データベースの仕組み ・個人による安全対策 ・安全のための情報技術	a:情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割および情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。 a:データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解している。 a:データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し、技術を身につけている。 b:目的や状況に応じ、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考察している。 b:情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考察している。 b:データの収集、整理、分析および結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善できている。 c:情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。 c:データを多面的に精査しようとしている。 c:情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	小テスト 考査	小テスト 考査	課題 観察

前期	第3章 デジタル	・デジタル情報の特徴 ・数値と文字の表現	a:アナログとデジタルのそれぞれの特徴や違い、相互変換の方法を理解している。 a:表現できる情報の数およびその単位について理解している。 a:2 進数、10 進数、16 進数をそれぞれ相互に変換する方法を理解している。 a,b:コンピュータにおける負の数、小数、文字表現について理解し、適切に 2 進数で表現できる。 b:アナログデータとデジタルデータの違いを理解し、目的に応じて適切に使い分けることができる。 b:ビット数と表現できる数の関係について理解し、目的に応じて適切に表現できる。 b:2 進数、10 進数、16 進数を用い、相互に変換して表現できる。	小テスト 考査	小テスト 考査	課題 観察
		・演算の仕組み ・音の表現 ・画像の表現 ・コンピュータの構成と動作 ・コンピュータの性能	a:2 進数の簡単な加算と減算について理解している。 a:AND, OR, NOT の基本論理回路を理解している。 a:半加算器、全加算器の仕組みについて理解している。 a:音やデジタル化の仕組みについて理解している。 a:加法混色、減法混色、解像度、階調について理解している。 a:ラスタ形式とベクタ形式の違いを理解している。 a:ハードウェア、ソフトウェア、OS の機能を理解している。 a:メモリのアクセス時間や命令数を計算することができる。 a:2 進数による小数の表現で誤差が生じることを理解している。 a:圧縮の仕組みを理解し、圧縮率を計算することができる。 b:組み合わせ回路や半加算器の真理値表を適切に表現できる。 b:標本化周期や標本化周波数を音質とデータ量に関連付け、目的に応じて適切に表現できる。 b:画像をデジタル化する際、目的	小テスト 考査	小テスト 考査	課題 観察

			に応じて適切に思考できる。 b:CPU の動作と演算の仕組み、処理能力とクロック周波数の関係について、適切に思考できる。 b:圧縮の仕組みを理解し、目的に応じて適切に表現できる。 c:音のデジタル化の学習に、興味・関心を持って取り組んでいる。 c:画像・動画のデジタル化や圧縮に関する学習に、興味・関心を持って取り組んでいる。 c:ハードウェアとソフトウェアの学習に、興味・関心を持って取り組んでいる。 c:計算結果に誤差が生じることを確認する実習について興味を持っている。			
後期	第5章 問題解決	・データの収集と整理 ・ソフトウェアを利用したデータの処理 ・統計量とデータの尺度	a:オープンデータには、CSV などさまざまな形式があることについて理解している。 a:収集したデータを結合し、新たな表を作成することができる。 a:表計算ソフトウェアの関数を理解している。 a:表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を使って目的のグラフを作成することができる。 a:表計算ソフトウェアを使って昇順、降順に並べ替えることができる。 a:表計算ソフトウェアを使って条件に従ってデータの抽出ができる。 a:表計算ソフトウェアの関数を使って統計量を計算することができる。 b:画像認識の実例について説明することができる。 b:必要な情報を得るための適切なグラフを選択することができる。 b:おもな基本統計量について説明することができる。 b:量的データと質的データの違いについて説明することができる。 b:身近な数値データを尺度水準で	小テスト 考査	小テスト 考査	課題 観察

			分類し、特徴について説明することができる。 c:オープンデータを問題解決に活用することに興味・関心を持っている。 c:テキストマイニングや画像認識に興味・関心を持っている。 c:表計算ソフトウェアの活用方法の習得に意欲的に取り組んでいる。 c:データの特性を尺度水準の観点でとらえることに興味・関心を持っている。			
		・データの分布と検定の考え方 ・時系列分析と回帰分析	a:ヒストグラムや箱ひげ図によるデータの分析方法について理解している。 a:表計算ソフトウェアを利用し、ヒストグラムを作成することができる。 a:表計算ソフトウェアを使って移動平均を計算し、グラフ表示ができる。 a:表計算ソフトウェアを使って線形近似、多項式近似により、グラフ表示ができる。 b:移動平均とその方法について説明することができる。 b:回帰分析や相関係数について説明することができる。 c:ヒストグラムや箱ひげ図による分析や考察に意欲的に取り組んでいる。 c:表計算ソフトウェアを使った時系列分析、および回帰分析に意欲的に取り組んでいる。 c:最小二乗法の学習に興味・関心をもっている。	小テスト 考査	小テスト 考査	課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度